

## お盆は日本だけ？

毎年、お盆にお配りしている『あみたあばあ』も、第十号を迎えることとなりました。お盆に関する事について少しづつ書いてまいりましたが、今回は、少し見方を変えて、日本にお盆というものがあることの意義を考えたいと思います。すなわち、御先祖をおまつりする習慣は日本だけなのか人類共通なのかどうかという事について今回は、キリスト教の世界を取り上げて少し考えてみたいと思います。

昔私が、五月にドイツを旅行したおり、バスで通った街道沿いの村や町のそれぞれの広場に「五月の木（マイバウム）」が立てられていたのを見て興味を持ちました。そのときは単に遅い待ちわびていた春を喜ぶものぐらいに考えていたのですが、後に、五月一日の「五月祭（メーデー）」と関係あることを知りました。「メーデー」なら日本でもやってる労働者の祭典ではないかと思われましょうが、現在の「メーデー」がアメリカで始まる遙か昔から祖霊祭としてあったものでした。そのことは、四月三十日の前夜祭が「ワルプルギスの夜」の祭と呼ばれ、有名なゲートの『ファウスト』の中のブロッケン山に、さまざまの魍魎や妖怪変化や魔女や悪魔が、鬼火の案内で集まり、みんな夜通し踊るといふ話からも知ることができます。さらにさかのぼるとブロッケン山はもともと聖なる山で、精霊、死霊が集まるといふ信仰があったが、キリスト教によって悪魔や魔女に変

質させられ、言い伝えとなりゲーテが『ファウスト』に取り上げたとも考えられます。もしそうならば、「ワルプルギスの夜祭」はわれわれの「盆踊り」に近いものと言えるかもしれません。

日本の祖霊祭がお盆と正月の二回あるように、キリスト教圏には十一月一日の「万霊節（ハローマス）」があります。昨年アメリカで、日本人留学生の不幸な事件があり、近頃日本でも知られるようになってきたハローウィンはその前夜祭に当たり、お化けに仮装するのは、万霊や祖霊があゝの世から帰ってくることをあらわすものといわれています。これはまさに、盆踊りの仮装大会と同じ世界といえます。夏のお化け屋敷のスイカのお化けとハローウィンのかぼちゃのお化けは似ていて当たり前というべきかもしれません。

一般にキリスト教で、または、実際に私が高校で教科書によって教えている知識としてのキリスト教でも、キリスト教に御先祖様は出てきません。しかし、祭の意味を考えると、御先祖様に対する人類共通の気持ちが見えてくるような気がします。だから、日本において私たちが、ごく自然にお盆を迎え、御先祖様をお迎えしているのは、ごく当たり前のことなのです。

私たちが御先祖様から受け継いだお盆のお祀りの素晴らしさは、なによりも、御先祖様への真心の素直な表現がなされていることだと思えます。お盆の意義の普遍性を理解すればするほど、御先祖様が私たちにお盆のお祀りを伝えてくれたことへの感謝の念がより一層強くなる気がいたします。